

# 埼玉県 退職校長会 会報

題字・新井俊一

第184号

令和7年4月

## 人生の第三章に向かつて

埼玉県退職校長会副会長

九ノ里 幸子



今年は冬の寒さが厳しく植物の成長が遅れ気味ですが、庭の白梅が満開になりました。

さて、私事になりますが教師生活を第一章とする、第二章は退職を待っていた母の介護から始まりました。その間地元校長会の役員、埼玉退職女性校長会の役員となり、ここで終るかと思いましたが、県退職女性校長の理事となり、以後8年間、役員としてお世話になりました。最後の2年間は埼玉県退職校長会の

副会長として、仲間に加えていただきました。この間県内の方々との触れ合いや活動を通し、多くのことを学ぶことができました。現職時代とは違う経験がありました。

退職女性校長会では、会員研修で、埼玉の偉人である塙保己一、荻野吟子などの方々について深く知ることができました。また、現職と退職との研究協議会では、今の学校教育を知るとともに、退職後の生き方を学び、会員との絆を深める活動となっています。現在、埼玉県退職校長会では、会の在り方や新しい課題などについて、学ばせ

- |    |                      |
|----|----------------------|
| 1  | 巻頭言                  |
| 2  | 理事会報告                |
| 3  | いまを生きる               |
| 10 | 定期総会案内               |
| 11 | 一人一言                 |
| 17 | 長寿会員・物故会員            |
| 18 | 役職定年後の働き方の選択に関する実態調査 |
| 20 | 文化                   |

ていただいています。

また、退職校長会の他に、人権擁護委員として、人権啓発、人権相談、学校等への人権教室等の活動を通し、人権尊重の精神について考

## 今思うこと

北埼玉支部長 富田 政博



は必然ではあるが、社会のための教育ではなく、教育のための社会という視点も見失ってはならないと思う。

令和6年12月26日、文部科学省は中央教育審議会に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」を諮問した。次の教育課程は30年代教育の内容や方向性を示すものとなるので、その行方を注視したい。時代の流れとともに教育内容が変わっていくの

えることができました。

さて、これからはどんな第三章が待っていることでしょうか。これまでの生活を見直し、ゆつくり丁寧に生きていきたいものです。

趣味を深め、野菜作りを通して、人との関わりが持てたら幸せです。

これまでお世話になった方々に感謝しながら。

ていくのであろうか。

また、教員の志望者数の減少も気になるところであ。教員の働き方改革によって、教職調整額の見直しも図られているが、思い切った給料の引き上げも必要ではないか。優秀な人材を教育界に迎えないければならない。「教育は人なり」何よりも、子どもたちにとって最大の教育環境は教師であらう。財政的な問題はあろうが、政府の大英断を期待したい。また、管理職への志望も少ない。なぜそうなのか国や自治体も考えてもらい、女性の登用がしやすい体制も構築しなければならぬと思う。

話は変わるが、退職校長会役員のなり手がいない。様々な事情があるにしても、子どもたちを指導し、教員を指導してきた立場の者が、どうして、役員を頼まれたら二つ返事で応えることができるものだろうか、と思う。もちろん、魅力ある退職校長会の組織にしなければと思う。